

厳選良問

～ 2つ選択肢だけに注目すれば解ける問題 ～

分野

医療・心理系分野

出典

介護福祉士試験(第29回-問題72)

問題

問題 老化に伴う知的機能の変化に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 目から入る感覚記憶は低下しやすい。
- 2 からだで覚えた手続き記憶は忘れにくい。
- 3 昨日の出来事などのエピソード記憶は忘れにくい。
- 4 計算などの流動性知能は低下しにくい。
- 5 経験や学習で得られた結晶性知能は低下しやすい。

＝＝

ポイント&解答

資格別試験対策

社会福祉士	精神保健福祉士	介護福祉士	介護支援専門員	保育士
★★	★★	★★★	★★★	★

注) ★★★…必ず学習!! ★★…できれば学習! ★…余裕があれば確認 ×…学習しなくてOK

試験対策ポイント解説

知的機能の変化として、記憶と知能について問う内容となっており、スタンダードで良い問題です。ただ、ちょっとした発想で、3つの選択肢が消せてしまうという小技が使えてしまう問題でもあります。それは、選択肢2と選択肢5が相反する内容になっているので、どちらかが「○」になると判断できてしまいます。からだで覚えた記憶って、自転車の乗り方やピアノの弾き方などが挙げられますが、これらはある意味、経験や学習ですよ。ですから、片方が「忘れにくく」、もう片方が「低下しやすい」とおかしな感じになってしまいますので、どちらかが「○」の選択肢であると判断できます。受験生のなかには、「記憶と知能は違うじゃないか」と思う方もいるかと思えます。それも間違いではありません。用語として記憶と知能で区別しているのだから、細かくみれば異なるものだといえます。

しかし、大きく捉えるとどちらも「脳で処理しているもの」です。記憶や知能のほか、感情、感覚、知覚などもそうですが、これらは脳で処理している仲間みたいなものなので、共通項が多くあります。その共通項が、相反する内容で記述されていれば、どちらか一方が正しいと判断しても問題ないといえます。

この問題のように、選択肢間の相互作用的なものを見つけると、一気に正誤判断すべき選択肢が限られてくるので、正解率もアップし、試験時間も節約できます。是非、活用してみてください。また、「時には物事を細かく捉え、時には物事を大きく捉える」ということも、試験合格に必要な技術の1つです。

解答 2

